

07年 ふらすこ 第2号

発行 2007年7月

発賣 北海道勤医協検査技師部会

7月です！ 初夏を彩るヨサコイ祭りが過ぎ、いよいよ夏本番っ！
ビアガーデンの季節ですっ！！仕事帰りにちょっとイッパイ、これもまた、明日への活力ですよ（ただの酒好き！？）

おっと、忘れてはならない、大切な**参議院選挙の月**でもありました。『消えた年金』『靖国派による憲法改悪』『貧困と格差』どれも待ったなしの大問題です。世界第2位の経済力を誇るとされる日本で「ネットカフェ難民」という衝撃的な言葉も生まれ、格差はますます広がるばかり。

7月29日（日）、私たち一人一人の大切な一票こそが、今の自公暴走政治への歯止めとなる大きな力に成り得るのだということをしっかり胸に畳み込み、今月最後の日曜日、大きな使命を持って投票所へ向かおうと思います。

内村さんから

元気なお便り届きました♪

皆さん、お元気ですか？ 内村です。

先日は、心に残る送別会ありがとうございました。

この場をお借りして、近況報告を致したいと思います。

『この2ヶ月、元気にやってますよ。とは言え、とんでもありの激変生活に50歳の頭と身体は遠心分離寸前ですがね。』

化石的に「社会福祉主事」の肩書きがあったので、今頃になって「生活相談員」としての存在理由になっています。

仕事は何かって？「笑福」のスタッフは「何でも」が仕事。利用者の車送迎、10人以上の調理、バイタルチェック、入浴介助、レク・体操指導、童謡も歌ったりね。掃除、洗濯、農作業とかも。当デイは夜勤もあり、さっそく徹夜。さらには共同住宅への生活支援（弁当屋手配、買い物援助とかトカとか）もするし。

眼科の経験を今すぐ介護分野で生かせるものではありません。とにかくこちらで「モノ」にならないとお話にならないわけで、物忘れ指数「二歩」レベルに低下した頭がどこまで再生可能か、デイ利用者さんとの「共」争が続くのでした・・・。」

内村さん！お便りありがとうございました。

頑張ってくださいね！！

私たちが負けてられないわ～っ



（今月のヒット川柳）
腕出して 初めて気付く 組の人
（ペンネーム 万年髪）
採血のときの気持ちに詠んでくれました。これは、
皆さん経験ありますよね。「胸出して 龍と目が合い 苦笑
い」なんてのが心電図室から聞こえてきそうです。ハイ。

～技師川柳～

サラリーマンだけが辛いんじゃないっ！

技師だって川柳を詠んで

日常の悲喜交々を表現したいんだっ！！

・・・ということで、先月から始まった『技師川柳』、どしどしと作品が寄せられています。日本人の心に響く、5・7・5のリズムに乗って、あなたの思いのたけを表現してみませんか。ななしのごんべいさんでも構いませんので、是非ご投稿下さい！こんな気持ちの時に詠んでみました、と注釈付きもあると楽しいですね ふうらすこ編集スタッフ一同心よりお待ち申し上げます！！

ドア開けて 押し寄せてくる 人の波

(朝の採血、特に火曜・木曜(中病)の9時前からたくさん患者さんが待っている様子、コワイ！)

開いてます その一言が 言えなくて

(採血前にトイレに行ってもらい、戻って来た男性患者さんのチャックが開いているのに気付いてしまった時。皆さんはどうされますか?)

トイレ行く チャンス逃して 武者震い

悪い癖 視線の先は 薬指

(私、初対面の男の人はまず最初に結婚指輪をしてるかしてないか、これ絶対確認します！！)

輸血学会発表!

去る6月2日(土) 中病第1検査科の中谷朋枝さんが、名古屋国際会議場にて第55回日本輸血細胞治療学会に演題を持って参加されました。

2003年2月、中央病院にて輸血療法委員会を発足。同年7月に『安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律』の施行に伴い、輸血療法のあり方を見直し、特に不十分だった輸血後感染検査について手順を構築し取り組みを開始させた2003年10月から2年間のまとめを発表されています。

ここに、発表内容の抜粋を紹介させていただきます。詳しい中身は是非、伝達講習会に参加されてライブの中谷講師から熱く学んで頂ければと思います。手強い質問どしどし受け付けます!? ねっ、中谷さん

輸血療法委員会

2006年度メンバー

委員会 麻酔科医師

毎月第3火曜日

5時半より開催

事務局 輸血担当検査技師

委員 外科委員・整形外科医長

内科医長・内科医師

透析室師長・看護主任

入院事務係長 薬剤師主任

年間輸血量

【月平均の単位数】

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
MAP	159	187	159	130
FFP	66	92	41	62
PC	113	116	146	83

各セクションの連携、取り組みやすい手順の確立、職員・患者様への啓蒙活動が重要である。その中心となって活動するのが輸血療法委員会なのだ！！

輸血後感染検査手順 <輸血担当技師の役割>

輸血後検査説明用紙を作成し、それぞれの担当部署に配布

交差試験に使用した血清の残りを凍結保存

輸血実施患者登録、リスト作成

外来から結果の連絡もしくは返信ハガキが届いたらリストに記入し、ハガキは目隠しシールを貼って投函

輸血後感染検査実施状況の確認

5ヶ月後未検査の患者様に検査お勧めハガキを郵送

輸血後感染症検査セット(輸血手順書・問診表・返信ハガキ・HIV同意書)を作成し、外来へ補充

圭永ちゃん・朋ちゃんの名古屋珍道中

中病 第1検査 中谷 朋枝

日本輸血細胞治療学会参加のため、連携室の佐藤圭永課長と一緒に名古屋へ行ってきました。事の発端は、昨年10月の輸血談話会。「輸血後感染症の取り組みについて話してほしいんだって！どうする？」にっこり笑いながらやってきた圭永さん(想像できる?)に、「どうするって…」返す言葉もないまま引き受け、話した内容に、今度は旭川医大の友田さんが「この取り組みは発表したほうがいいよ！」とのたまった。何を言ってるの??確かに大変な思いをしながらやってきてはいたけれど、これってすごいことだったんだーと改めて輸血療法委員会を立ち上げてシステムを構築してきた前任の方々には思いをはせる…そしてふと圭永さんの顔を見ると、すっかりその気になってにっこり笑顔。結局乗せられてしまった私は、圭永さんを道連れに名古屋へ行くこととなった。

札幌技の会長でもある圭永さんは、先週も宮崎の全国学会へ行ってきたばかり…連携室は大丈夫だろうか?いや、あそこには、しっかり者の菊ちゃんがいるから大丈夫。院内検査室も力持ちがそろっているから大丈夫。一番心配なのは、結局のところ自分だった。

出発当日の名古屋の天気予報は雨。明日も雨。チツとつぶやきながら折りたたみ傘を鞆に詰める。飛行機



の中で学会とその他の活動スケジュールを打ち合わせながら名古屋到着。小雨…「ごめんね～私雨女なの～。」そうだったのか…でも、ホテルに着くころにはすっかりやんでしまった。これは、良い傾向。学会は明日からなので、ひとまず荷物を置いて街へ繰り出した。日本で最初にできたといわれる名古屋タワーへ登る。「私、高いところ大好きなの～あそこあそこも行こうね～」全てが高い建物。名古屋の人も高い建物が好きなのか?一つの街にこんなにタワーらしき建物が

連立された場所を私は知らない。(そんなにいろんな都市へ行ったわけではないけれど…)「圭永さん、なんとかと煙は高い所が好きなんだって!」と憎まれ口を言っはみたものの、私の足は震えているので、負け犬の遠吠えのようで説得力がない。結局4泊5日の間に3つのタワーに登るはめになる。(名古屋城天守閣を入れたら4つ!)

学会初日、会場まで約1kmの道のりを歩いて会場へ。これが3日続いた。名古屋にいる間、歩いた歩いた…サロンパスは手放せない友達となる。(甲と裏に貼ると気持ちいい!是非お試しを!)ポスター発表の受付を済ませ、1日目は途中で抜けることも算段していたはずなのに、口演を聞く内に興奮し、ランチョンセミナーが終わるころには、やっぱり途中で抜けたりせずに、聞けるだけ聞こう!と、どちらともなく言い始めた。(決してランチョンの弁当に惹かれた

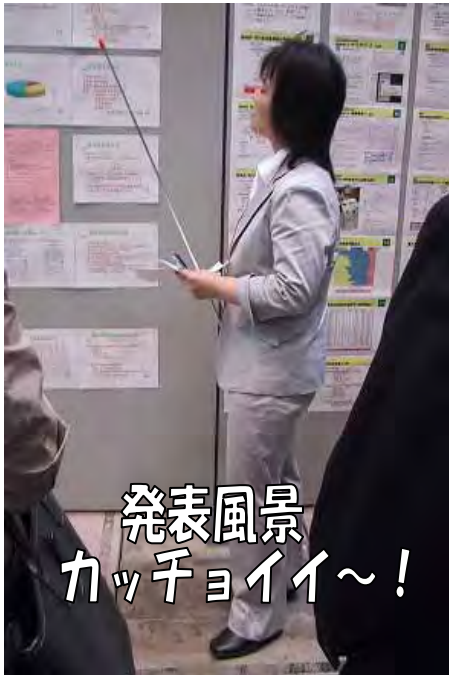


訳ではない!)予定していたその他の活動はすべて学会終了時からとなる。熱田神宮にお参りし、近くの店でひまつぶし…ではなく、ひつま

ぶしを食べた。うまい!感動の味だった!!学会2日目、そうそう、私には、輸血システムの視察という任務もあった。ここでしっかり見なくては…電カルPJ委員の中島さんの顔がちらつく。オリンパスのシステムが素敵!と思ったら最後、他のはどうでもよくなる。こんなんで、任務を遂行できるのか?不安になる。さまざまなポスターを見る。自分のと比べる。不安になる。発表の原稿の手直しをしたほうがいいのかも…不安だらけになる。それでもその日は、駅前のスカイタワーに登り、47階吹き抜けの回廊を歩いて降りる。まさにスカイウォーク!怖すぎる…自然とガラス側から離れて歩く。「見て～明日は、あそのタワーにいくんだよね～」のんきだ…その前に発表があることを知っての発言かっ!ホテルに帰ってから、やっぱり内容を考え直す。その横で「あんまり心配してないし～」と言いながら、持参したパソコンで、名古屋最終日を効率的に楽しむため、電車の時刻

を調べ、メモに勤しむ。計画に余念がない。ある意味、ありがたい。できあがった原稿を読み上げ、時間を計ってもらう。「いいんじゃない？」本当にそうなんだろうか…一抹の不安を持つものの、今更、これ以上どうしようもない。ということで、就寝。

いよいよ発表当日。緊張…3分の持ち時間。前の人達の発表を聞きながら、足が震える。輸血後感染症の取り組みは、感心が高いらしく、かなりの人だかりに圧倒。さらに、私の発表の後は、旭川医大の紀野先生ということもあって注目度が高い。



発表風景
カッチョイイ～!



なんとか無事発表を終え一気に開放された。ポスターを剥がし、終わったことかみ締める。そして、念願のコアラを見に

東山動物園へ急ぐ。「コアラなんて動かないし、ぬいぐるみと一緒にだよ。」なんて言われて「それでもいい！」と思っていたら、動いてた！ラッキー！さらに、動物園の閉園時間が延びて、思ったよりもゆっくり散策。そして、東山タワー。(またかよっ！)そこでバイキングを食べながら、ここで飲んだら、酔いがまわって倒れるかも…ということで、ウーロン茶で乾杯。きれいな夜景を見ながら、今回の学会は参加できてよかった。ありがとう。とお互いに感謝しあう。私達の感じた興奮の半分でも、伝えることができたら…どうやって伝えたらいいんだろう？『「名古屋どうだった？」って聞かれたときに、「うんおいしかった。ひつまぶし。」なんて答えたら駄目なんだよ～』といいつつ、楽しい時間を過ごす。思えば、ラッキー続きの4泊5日だった。地図を読める圭永さんと、遠くの

標識が見える私の二人旅は、迷うことなく計画通り遂行された。(一度だけ、電車に乗り間違えたけど…)最後の日は、名古屋城と、少し離れた有松という町の絞りまつり。さあ、用意周到に準備した時刻メモが活躍するかと思いきや、コインロッカーに預けた方の鞆に入れたらしい…おいおい！今日は、時間との戦いだから…と言いつつ、有松では、絞りの浴衣に目を輝かせ、今にも買いそうな勢いの圭永さんに、目が点。絞りの生地で作られた日傘を購入し、さらにあれもこれも…私もね、好きだから自分で歯止めがきかなかったらどうしようと思っていたけど、人間、自分よりもすごい人を見ると、歯止めがかかるもんなんだなぁと実感。なんとか帰りの電車に間に合って、無事飛行機に乗れました。

全国規模の学会に参加することで、沢山の刺激を受けて、自分たちのやってる中身を確認し、見えてきた課題を整理して取り組む。学会は参加するだけでも意味がある。みなさんも是非いろんな分野で刺激を受けて、職場を活性化していきましょう。輸血って、奥が深い。マニアックについていけないことも多いけど…。安全に輸血を施行するための手順は、大変なことも多く敬遠されがちだけど、絶対に安心な血液製剤なんて存在しないし、それを身体に入れる患者さんにとっては、リスクが高いに違いない。そのリスクを少しでも軽減するために、血液センターは、感染症検査の感度を上げ、検査技師は交差試験をし、医師や、看護師は、経過観察を行う。輸血に携わる医療従事者の中で、一番まともに輸血についてのカリキュラムを学習しているのは、検査技師らしい。それなら、それなりの働き方があるのでは？なんて考えてみたりして…来年の輸血学会は福岡。また行きたいなぁ…今度は自費だな。きっと…。

これって学会報告になってないじゃん！！いいのか？これで…？学会の中味については、伝達講習会にて…(こんな大風呂敷敷いて大丈夫なの？私…)

1週間近くを快く送り出してくれた職場の皆さんと派遣してくれた技師部会に感謝します。ひつまぶしおいしかった～！！おしまい(伝達講習会楽しみに

待ってまーす

by コアラのマーチ)



名古屋に
また来て
ね